

第54回電力・ガス取引監視等委員会・制度設計専門会合

# 発電側基本料金の見直しについて ～地域密着型バイオマス発電側からの意見～

2021年1月25日

一般社団法人日本有機資源協会

## 基本的見解

- ① 発電側基本料金は、電源の稼働率を高めることによってインセンティブが得られる仕組みとして、電源種にかかわらず各発電所の系統側への最大出力kW単位で負担するのが、設備利用率に関わらず発生する費用なので適切と考える。kWh課金と組み合わせる場合も、同比率ではなく、kW課金比率を相当高く設定すべきである。
- ② 既存設備への適用に当たっては、適用当初は負担額を低くするなど、激変緩和措置を設定すべきである。

## 今回の論点外の注視する議論

### ①FIT 買取期間中の再生可能エネルギー電源の取扱い

調達価格等算定委員会等において議論される、1)FIT認定を受けて既に調達価格が確定しているもの、2)発電側基本料金の導入後にFIT認定を受ける（調達価格が決まる）ことになるものについての、FIT買取期間中の調整措置。

### ②送配電設備の都合により逆潮できない場合における取扱い

### ③小売電気事業者への転嫁に関するガイドライン

⇒ **丁寧な議論と経過の説明をお願いしたい。**

## (参考)各種バイオマス発電の特徴

### <地域密着型バイオマス発電>

#### ・バイオガス発電(メタン発酵)

主な燃料:家畜排せつ物、食品廃棄物、下水汚泥+α ⇒ 地域密着、環境価値

#### ・国産木質バイオマス発電

主な燃料:間伐材、林地残材等 ⇒ 供給ポテンシャル大、地域密着、環境価値

### <その他のバイオマス発電>

#### ・大規模バイオマス発電

主な燃料:外国から輸入する材 ⇒ 大規模、需要地に近い、持続性の議論あり

#### ・バイオマス液体燃料発電

主な燃料:パーム油等 ⇒ 大規模、需要地に近い、持続性の議論あり